80. Love TOKYO FM

PRESS RELEASE
２０１１年１０月５日

報道各位

TOKYO　FMをはじめとするJFN全局によるFMの祭典
FMフェスティバル2011『未来授業～明日の日本人たちへ』
「知の巨人」たち
〔益川敏英氏、畠山重篤氏、大屋裕二氏、姜尚中氏、齊藤孝氏、福岡伸一氏、内館牧子氏〕
が未来を担う若者たちに公開授業を実施

TOKYO FMをはじめとするJFN（全国FM協議会）全国38のFM局では、11月3日（木・祝）の文化の日に、茂木健一郎氏を総合司会に迎えたスペシャルプログラム、FMフェスティバル2011『未来授業～明日の日本人たちへ』をお届けいたします。

番組の中で放送する大学生たちを対象とした公開授業を、ノーベル物理学賞を受賞した京都大学名誉教授の益川敏英氏、国際政治学者の姜尚中氏、教育学者の齊藤孝氏らを迎え、名古屋、仙台、福岡、東京の4箇所で実施いたします。

各授業においては、東日本大震災が発生した「3･11前」と「3･11後」であらゆる既存の価値観が見直され、人々の心情も大きく変化している中、表面的、皮相的な行動論理でなく、「未来への希望」と「そこに至る具体的な羅針盤」を提示します。そして、ダメージを受け止めつつ、私たちひとりひとりが10年後の未来に向かって前向きに行動していくために必要な「気づき」「きっかけ」となる未来授業を目指します。

1972年よりスタートしたFMフェスティバルは、音楽を中心に、FMメディアの特性を最大限に活かし、全国のJFN全局が総力を結集。全国のFMリスナーがひとつになる日として、若者にエネルギーを与えながら、毎年毎年積み上げて実施してきたFMの祭典です。

そして今、JFN38局は、現代社会の様々な問題をこころの問題と捉え、そのあり方をリスナーとともに見つめ、深い絆を作りたいという想いをこめて“ヒューマン・コンシャス～生命を愛し、つながるこころ～”を提唱、様々な活動を続けています。

そこで、2010年度の前回より、FMフェスティバルは、これからの未来を背負う若者たちが、世の中を生き抜くうえで抱える不安に対し、未来の日本を生きるヒントを探り届けたいという思いのもと、「知の未来授業」を開講しています。これは、日本の第一線で活躍し、時代のオピニオンリーダーである「知の巨人」が、大学生と向き合い、直接議論を交わす１回限りの公開授業です。

2011年2月に実施した初回の取り組みは、参加した大学生、講師陣、リスナー、関係者、さまざまな方から高い評価をいただき、続編を期待する声が多く寄せられました。

それを受け、2011年11月、この第2弾となる「FMフェスティバル2011　未来授業」を、さらに規模を拡大して実施いたします。

また今回は、東京の『未来授業』を、世界規模で活躍する「知の巨人たち」の授業にふさわしい、国連のシンクタンクである国連大学のウ・タント国際会議場で開催することが決定しています。

≪ 「FMフェスティバル2011　未来授業」実施概要 ≫

■企画意図

自然災害、原発、テロ・戦争、市場の激変。
様々な有事が常態化するなか、大学生を中心とする若い世代に、日本のあり方、人類・地球の行く末、人間の社会的な存在意義など具体的なテーマで実施する未来授業。各分野の知の巨人が次代を担う若い世代を触発し、未来への希望を語りかけます。
東日本大震災が発生した「3・11前」と「3・11後」であらゆる既存の価値観が見直され、人々の心情も大きく変化しているなか、表面的、皮相的な行動論理でなく、「未来への希望」と「そこに至る具体的な羅針盤」を提示します。
国難とも呼ぶべき大震災に直面しながら、今まさに求められている復興への青写真。ダメージを受け止めつつ、私たちひとりひとりが10年後の未来に向かって前向きに行動していくために必要な「気づき」「きっかけ」となる未来授業を目指します。

■実施日・会場・講師

10 月 5 日（水） 会場：名古屋市・東建ホール 講師：益川敏英
10 月 11 日（火） 会場：仙台市市民活動ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰｾﾐﾅｰﾎｰﾙ 講師：畠山重篤
10 月 15 日（土） 会場：福岡市・エルガーラ多目的ホール 講師：大屋裕二
10 月 28 日（金） 会場：国連大学ウ・タント国際会議場 講師：姜尚中、齊藤孝、福岡伸一
10 月 30 日（日） 会場：仙台市青年文化センター　エッグホール 講師：内館牧子
※事前応募で集まった、大学生が対象。

■提　供

三菱商事、東京エレクトロン、ゆうちょ銀行

■特別番組放送概要

◇タイトル：三菱商事 presents FM FESTIVAL 2011 未来授業～明日の日本人たちへ
◇放送日時：2011 年 11 月 3 日（木・祝） 15:00～18:00
◇放 送 局：JFN 加盟 38 局
◇総合司会：茂木健一郎、坂本美雨
◇放送内容：大学生らを対象とし、各地で開催した「未来授業」の模様を、綜合司会・茂木健一郎の解説、総括を交えながら放送。
◇特設ｻｲﾄ ：http://fes.jfn.co.jp/
◇動画配信：特別番組放送後にビデオポッドキャストで公開授業の模様を映像配信。

≪「FM フェスティバル 2011　未来授業」講義内容≫

■名古屋会場（10 月 5 日開催、東建ホール）

◇講師：益川敏英（ますかわ　としひで）
2008 年ノーベル物理学賞。名大素粒子宇宙起源研究機構長、京大名誉教授
◇テーマ：科学と未来
3.11 の震災後、想像を絶する被害をもたらしている「福島第一原発」の事故。
水素爆発で破壊された建屋内に、細い竿で注水する姿は、その無意味性のため、「日本はやはり神話の国」だと世界中から揶揄されてしまった。段階的廃止も含め、世論の 70%が反原発となっている今、益川教授は、原発を基本的に「是」としながら、自然界のものを原子レベルで利用する上での利点と欠点を教示。
自然界に見られる現象には人間の恣意的な解釈によるものではなく、普遍性があり、それを考えるのが「物理」であるとする益川教授が、これまでの人生を振り返りながら、原子の世界からはじまって人生の哲学まで敷延する特別講義。

■仙台会場（10 月 11 日開催、仙台市市民活動ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰｾﾐﾅｰﾎｰﾙ＆30 日開催（仙台市青年文化ｾﾝﾀｰ ｴｯｸﾞﾎｰﾙ）

◆10 月 11 日授業
◇講師：畠山重篤（はたけやま　しげあつ）
NPO 法人 森は海の恋人 代表、京都大学特任教授。（牡蠣養殖業を営みながら、漁民による広葉樹の植林活動「森は海の恋人」運動を実施。 94 年朝日森林文化賞、2000 年第６回環境水俣賞、2004 年第 52 回日本エッセイスト・クラブ賞などを受賞）
◇テーマ：森は海の恋人、鉄は魔法使い
復興を機に、もう一度日本という国を見つめてみよう。大きな視点で。日本は四方を海に囲まれた島国。２万１０００本の川があり、日本海と太平洋に流れ込んでいる。川からは植物プランクトンが必要とする栄養が流れ、それを食べて植物プランクトンが光合成をし、酸素を出す。
二酸化炭素の排出規制が叫ばれているが、この森と川と海の関係をきちんと知っておけばいい。もともと地球の大気中に酸素はなく、二酸化炭素だらけだった。それが植物プランクトンの光合成によって海から酸素が湧き、オゾン層ができ、生物が陸へ上がった。海の「大森林」の力で今の地球が出来た。海の森こそ、CO2 問題の解決鍵だ。
今回打撃を受けた三陸も海の恵みも、もとは隣国ロシア・アムール川の森の栄養からきている。

自然は循環している。東北は大打撃を受けた。だからこそ、地球の循環を知り、大きな視座で人と地球との関わりを見直そう。森と川と海はパートナー。そこに抱かれているのが人間。復興は、この関わり方を知ることから始まる。

◆10 月 30 日授業

◇講師：内館牧子（うちだて　まきこ）

脚本家。東日本大震災復興構想会議委員。

秋田県生まれ。 武蔵野美術大学を卒業後、13 年半の OL 生活を経て、1988 年に脚本家デビュー。NHK 朝の連続テレビ小説『ひらり』『私の青空』、NHK 大河ドラマ『毛利元就』等を手掛けている。元横綱審議委員。現在、東北大学相撲部の総監督を務めている。

◇テーマ：逆境からの復興

地震と津波と原子力災害。これだけの逆境の中で、東北を、どのように復興していくのか。そのために必要なことは、自分の将来を「具体的に」考えること。あなたは何者になりたいのか。

13 年半の OL 生活を経て脚本家としてデビューした自身の半生を振り返りながら、逆境から復興した東北の姿を考える希望の講義。

■福岡会場（10 月 15 日開催、エルガーラ多目的ホール）

◇講師：大屋裕二（おおや　ゆうじ）

九州大学応用力学研究所　新エネルギー力学部門　風工学分野教授。

◇テーマ：風を集めて、未来へ

大屋教授は、クリーンで再生可能な自然エネルギーの利用を高めるため，風力エネルギーの効率的な取り出し方の研究を行っている。大屋教授の「風レンズプロジェクト」は、その呼び名通り、地形あるいは構造体を利用して風を局所的に集中させ，風エネルギーの密度を高めて風力発電の高効率化を目指している。

地方の時代の新しいヒーローが、新時代のエネルギーについて熱く語る。九州という地方の大学で世界のエネルギーを見据え実験を繰り返している姿がそのまま将来を担う若者へのエールとなる。

■東京会場（10 月 28 日開催、国連大学ウ･タント国際会議場）

◇講師①：姜尚中（かん　さんじゅん）

国際政治学者、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授。

◇テーマ：3･11 以降の日本～故郷（ふるさと）は未来にある～

現在ほど日本が世界から注目されている時代はない。震災に直面した日本人の行動が賞賛され、原発に象徴されたエネルギーの転換地としても注目されている。円高現象も手伝い、3･11 以降の日本はグローバリズムの中心に位置している。

講義はその日本の内面に目を転じる。これまでの人間関係を見直す動きが顕著になっている。震災離婚の急増、震災結婚、震災復縁。姜尚中のベストセラーは「オモニ」。戦後グローバリズムに翻弄されながらも人間関係の最小単位「家族」を見つめ、そこを原点として社会を俯瞰、現実から這い上がろうとしたストーリーが、20 万人もの日本人読者の共感を得た。

そんな彼が、改めて、3･11 以降の日本の家族、人間関係、そして社会、日本のあり方について講義する。

◇講師②：齊藤孝（さいとう　たかし）

教育学者、 明治大学文学部教授 「声に出して読みたい日本語」の著書でも知られる。

◇テーマ：3･11 後の日本人の教養のあり方（仮）

東日本大震災後、日本全体を復興していかなければならない事態になっている。起きるべくして起きたこのパラダイムシフト時代、私たちは喪失感の後にどのようにしてコミュニケーションを図るべきか。今の日本人同士のコミュニケーション、海外とのコミュニケーションについての講義。さらに、日本人が保つべき精神文化・古典・教養について教育学者の立場から語る。

放射能への脅え、リストラ、余震。生きる地盤そのものが揺れている。そんな中で日本人はどのように自信を取り戻せるのか、震災後の日本人の教養のあり方を考える。

◇講師③：福岡伸一（ふくおか　しんいち）

京都大学大学院、ロックフェラー大ポストドクトラル・フェロー分子細胞生物学研究室、ハーバード大医学部ポストドクトラル・フェロー。青山学院大学教授。分子生物学専攻。『動的平衡　生命はなぜそこに宿るのか』が大ベストセラー。

◇テーマ：生命観を問い直す～動的平衡とは何か

すべての生物は地球の循環をしている。すなわち「動的平衡」を支えるプレーヤーだといえる。環境保全を考える上で欠かせないのが「生物多様性」。この多様性こそ未来の鍵である。多様性はバランスの上に成り立っており、原発による放射能漏れは日本の動的平衡を崩してしまった。ここで私たちの負うべき責務とは!?